



## 新潟地方本部 第10回定期地方委員会



とき: 2024年2月25日(日)  
12時00分開会  
ところ: 万代市民会館多目的ホール

# 出区番線 車両状態 変更事項… 相互確認できる点呼体制を求める

### 申4号・運転士が不安なく、正しい作業が行える作業環境を求める申し入れ団体交渉

新潟地本は昨年12月15日、申4号・運転士が不安なく、正しい作業が行える作業環境を求める申し入れの団体交渉を行いました。

新潟車両センターと旧・長岡車両センターで折り返し点呼が廃止され、Joitabに配信される情報により、乗務員自らが出区番線を確認する方法に変更されたことに対して、不満や見直しを求める声が出ていたことから申し入れを行っていたものです。

2023年ダイヤ改正から取り扱いが変更となった出区番線等の確認方法について、現段階での課題を質しました。

支社側は、旧長岡車両センターと新潟車両センター間で記載内容にバラツキがありミスに繋がる恐れがあったので統一したと回答し、現在の所は順調に推移しているとの認識を示しました。

その上で、両箇所様式が異なっていた物を統一して、乗務員が確認するために必要な情報を絞って記載するようにしたと説明しました。

組合側は、実際には旧長岡車両センターと新潟車両センターとの間で、乗務員がいつから自分の労働時間が始まっているのか分かっていないと指摘し、当直も判断できないのではないかと質しました。

#### ◆ 「急遽の変更」とは、具体的にどのタイミングを指すのか質すと支社側は、乗務員が出発したと思われる時間帯の変更を指し、その時間帯に車両変更等があれば急遽の変更という事で当直から連絡、または車両センターの当直が乗務員を探して連絡することになるとしました。

#### ◆ 組合側は、出場時の点呼が無くなったことから、多くの乗務員がいつから自分の労働時間が始まっているのか分かっていないと指摘し、当直も判断できないのではないかと質しました。

#### ◆ 支社側は、点呼があっても早めに車両に向かう乗務員もいると思うとした

支社側は、点呼があっても早めに車両に向かう乗務員もいると思うとした

上で、当直としても前広に時間をみて連絡する体制でいると述べました。

区所によってJoitabの変更内容の表示方法が違うことは把握しているか質すと、違いがあることは把握しているが表示方法について統一はしていないとした上で、一目で分かるような状態にしたいことから、現場と情報交換しながら良い方法を検討して行きたいとの考えを示しました。

#### ◆ 労働時間の前に変更の連絡があった場合は労働時間とする事で良いか質し、指示として行うので

#### ◆ 支社側は、乗務員だけでなくNTSに伝達する中身もあるため、全てではなく出来るだけ統一したものであるとしました。

## 申15号として新潟支社に提出

# 車両部門の体制の見直し 課題の改善求め申し入れ

新潟地本は「新潟支社における運輸車両部門の組織再編」における体制の見直しに対して、三次にわたる申し入れを行い、新潟支社と団体交渉を重ねてきました。

車両区所の組織再編により、車両部門を新潟車両センター拠点とし、長岡車両センターを廃止、新津運輸センターの検修部門は新潟車両センターへ集約されました。

現場からは生産性の向上、柔軟な働き方を目的とした組織再編であったにも関わらず、検査、修繕計画及び車両運用対応を含めた関係業務が非効率になったとの声があり、業務に関わる組合員をはじめ

確認するこれまでの方法に戻せば、急遽の変更にも見聞できる事なく対応できなくなるため、出区遅延等を防止できサービスの観点から点呼のようなお互いに確認する方法を取るよう求めました。

支社側は、Joitabによる確認方法を変更

## 新幹線統括本部 提案交渉

# E2系交番検査体制の見直しを提案

中央本部は1月23日に団体交渉を行い、新幹線統括本部より「新潟新幹線車両センター業務執行体制の見直しについて」の提案を受けました。

新幹線電車のメンテナンスを継続的に実施していくために交番検査における作業工程や作業負担

め多くの社員から新潟地本に声が寄せられていました。

新潟地本は1月19日、申15号「新潟支社における運輸車両部門の組織再編(車両部門)」における体制の見直しに対する申し入れを提出しました。

作業負担を見直す理由を組合側が質すと会社側は、昨年はE7系の作業の動線や作業負担、役割等を見直すことにより検査体制の変更につながったことから、E2系についても検討を行い、E7系と同等の手法で検査体制の見直しができるかと判断したとしました。

#### ◆ 申15号 申入れ項目

1. 運輸車両部門の組織再編(車両部門)における体制の見直し施策における成果及び課題について明らかにすること。
  2. GV保全を新津構内で計画的に施工できるようにすること。
  3. 長岡駅(旧長岡車両センター)及び新潟車両センター新津派出において人員体制を見直すこと。
- 検査体制を14名から11名として3名減らす根拠を質すと、基本的にはE7系と同じ方法を取り入れた中で、編成両数が異なるE2系は2両短いことなどから提案した体制になるとの考えを示しました。



する考えはないとする一方で、現場の方にも話を聞いて改善できるものは検討していきたいとの考えを示しました。